

コロナ禍の中でも、開教記念式典を行うことができました。

これも大恩師さま、会主さま、大導師さま、女先生、そして先達の皆さまのお陰さまで。心から感謝申し上げます。

開教記念日にあたり申し上げたいことは、支部長さん役員さん信者さんの「それぞれの立場」について、お互いに振り返らなければならない。そして、「やる気」で修行しているかどうかということが大切であるということです。

私は以前から警鐘を鳴らしていましたが、コロナの感染者が増え、オリンピックがあのような形になってしまった中、私たちは「妙智會をやっているから大丈夫だろう」と油断をしてしまいました。

油断をして、ご自分の立ち位置に合った修行をしないということは、その立場にいないことになります。

現在のコロナ禍での状況をみてもそうですが、私たちは油断をしてしまいがちです。

油断をすることが、皆さまのご修行の障りになってしまうわけです。

「世のため人のために土台となる。これが私たちの使命であります」という事を会主さまは残され、それを受けて具体的にご指導を下さったのが大導師さまで。

開教の日だからこそ、私たちは会主さまのお心、大導師さまのご指導を頂き、心を改めなければなりません。

今月大きな地震がございましたが、これは霊界からのお諭しでしたので、被害は大きくなりませんでした。

物事には、霊界からのお諭しと、そうでないのがあります。

そうでない時には、大きな魔のものが来てしまうのです。

霊界からのお諭しの時は、しっかりとお経をあげる、お導きをすすめる、で良いのですが、私たちはその区別がつかず、霊界からのお諭しの時に騒ぎ、そうでない大変な時には油断をしてしまいます。

それではどのようにさせて頂いたらよろしいのかと申しますと、会主さまも大導師さまは何度も仰っておりましたが、先祖供養と懺悔のためのお導きなのです。

先祖供養というのは、先祖を集め、尊い妙智會の生院徳の法名をお付けしてお過去帳に写し、朝夕お給仕をしてお経をあげることです。

「自ら世の土台となる、覚悟を持つ修行」に邁進して頂くことをお願いいたします。